

普及活動情勢報告（平成29年2月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

ピーマンの増収を目指します！・・・中村支所ピーマン部会現地検討会・・・



2月13日、四万十市秋田のピーマンハウス2ほ場で、環境制御機器を導入した生産者による現地検討会を開催し、生産者3名、研修生1名が参加しました。

ほ場主から栽培管理状況の説明と現状の自己評価を発表してもらい、農業改良普及課からは生育調査結果を提示し、炭酸ガス施用条件下での生育について活発な討議を促しました。その結果、生産者から新たに収穫所要日数調査を実施する提案があり、即日調査を始め、課題解決に向けた行動力を高めることができました。

農業改良普及課は、今後もリーダーの自立型支援により、ピーマンの増収につなげていきます。

子ども達に農業を知ってもらいたい！・・・宿毛4Hクラブ出前授業・・・



1月27日、宿毛4Hクラブは宿毛小学校3年生62名を対象に出前授業を行いました。クラブ員2名を講師とし、クラブ員のほ場を見学・収穫体験した後、『ブンタンの栽培について』の授業を行いました。その後、JA高知はた文旦部会員と営農指導員の協力を得てJA高知はたみかん選果場内を見学しました。

子ども達からは、「今日ブンタンを獲って、話を聞いてブンタンが好きになった。」、「自分でブンタンをむくことができた。美味しい。」等の声がありました。また、クイズに対する生徒の反応もよく、活気のある授業で、「将来ブンタン農家になる人？」というクラブ員からの質問にも多く手が挙がりました。

農業改良普及課は、今後も地域の子どもの達が農業を学ぶ場を作れるように若手農業者の活動を支援していきます。

新規就農者を育てよう！・・・幡多地区指導農業士連絡協議会の開催・・・



1月24日、中村合同庁舎で新規就農者の育成を目指して、幡多地区指導農業士連絡協議会を開催し、指導農業士と関係機関34名の出席がありました。

農業改良普及課からは、幡多地域の新規就農者の状況、研修事業や募集活動について情報提供しました。また、新規就農者の育成や受入体制の課題、行政サイドの取り組み状況について、指導農業士や関係機関と意見交換を行い情報共有ができました。

農業改良普及課は、今後も生産部会での各農業士の活動支援を行っていきます。

ユズの青果出荷率向上に向けて剪定を！・・・JA 高知はた西土佐支所ユズ剪定講習会・・・



2月2日・3日の2日間、四万十市西土佐地域の4会場でユズの剪定講習会を開催し、計38名が参加しました。

農業改良普及課は、地域毎の課題に合わせて、若木の樹形の作り方や老木密植園の通路を確保するための剪定方法について実演しながら指導しました。その結果、目標樹形を目指し剪定に取り組む人が見られるなど、高品質生産への意欲を高めることが出来ました。

農業改良普及課は、今後も青果出荷率向上に向け、作業能率のよい木づくりの徹底と適期防除について継続した現地指導を行っていきます。

ナバナ産地の維持・発展に向けて・・・JA 高知はた西土佐ナバナ部会現地目慣らし会・・・



1月19日～24日、四万十市西土佐地域で集落毎にナバナの現地目慣らし会を行いました。期間中は大雪も降り、現地を見に行けないこともありましたが、延べ67人の農家が参加しました。参加した農家は熱心にナバナの選別や規格について、JA販売課や園芸連からの説明をきいていました。

農業改良普及課からはこの20年間のナバナの生産量や面積、戸数の推移を資料で説明し、産地の規模を維持していくために、作業の外部委託などの仕組みづくりを呼び掛けました。

農業改良普及課は、今後西土佐地域の関係機関で露地野菜の産地維持のための仕組みづくりのプロジェクトチームを立ち上げ、取り組みの実現に向けて働きかけていきます。

キュウリの増収・品質向上に向けて・・・土佐清水市キュウリ勉強会・・・



1月23日、土佐清水市の生産者8名が参加し、環境制御機器導入農家のほ場で勉強会を開催しました。

農業改良普及課からは、炭酸ガス施用ほ場の生育経過と促成キュウリにおける春先以降の栽培ポイントを説明し、生産者同士の議論を促しました。その後、ほ場主から耕種概要や温度管理、炭酸ガスの施用設定などについて説明してもらい、参加者全員で生育評価を行い、管理のポイントについて意見を交わしました。

農業改良普及課は、来月以降も定期的に勉強会を開催し、キュウリの増収・品質向上に努めていきます。

イチゴ産地の活性化を目指して・・・JA 高知はた宿毛支所イチゴ部会先進地視察・・・



1月19日・20日の2日間、イチゴ部会生産者3名と関係機関と共に、福岡県久留米市九州沖縄農業研究センター、佐賀県唐津市イチゴパッケージセンター及び栽培ほ場を視察しました。

九州沖縄農業研究センターでは、新品種の特長や新技術について学び、生産者からは「興味深いものも多く、試してみたいこともあった」、「新品種を栽培してみたい」との意見も聞かれました。

その後、パッケージセンターと近くのほ場も視察し、炭酸ガスの施用方法やマルチの張り方など、積極的な意見交換が行われ、産地の課題の改善意識を高めることができました。

農業改良普及課は今後も視察などの学びの機会を作り、増収技術の更なる普及に取り組み、イチゴ産地の活性化を行います。

ユズの着果安定に向けて・・・JA 高知はた三原支所ユズ剪定講習会・・・



2月16日、三原村宮ノ川でユズの剪定講習会を開催し、生産者26名が参加しました。

農業改良普及課は、裏年における整枝・剪定のポイントについて事前に講習会を行うとともに、当日現地で実際に剪定を行いました。生産者からは「太枝の整理が大事なことが理解できた」、「裏年の樹では果梗枝除去が大事」などの声があり、裏年における樹勢に応じた整枝・剪定の必要性について理解を深めることが出来ました。

農業改良普及課は、今後農業公社の幼木について、樹齢に応じた樹形づくりの徹底を個別指導すると共に、部会員の協力を得て樹齢及び課題毎の剪定展示樹を設置し、適期防除も含めた現地指導を行っていきます。